

機関番号：34315

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2009～2010

課題番号：21820069

研究課題名（和文） 浮世絵における他者の視覚化とカテゴリー化

研究課題名（英文） Visualization and Categorization of the Other in Ukiyo-e

研究代表者

鈴木 桂子 (SUZUKI KEIKO)

立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授

研究者番号：10551137

研究成果の概要（和文）：イメージ・データベースを体系的・網羅的に利用することにより、浮世絵の生産・消費に関わった社会集団とその文化の研究に、即ち、視覚文化研究に対するデジタル・ヒューマニティーズ的アプローチの有効性を検証した。具体的には、近世日本社会で広く共有された視覚文化としての浮世絵から、「他者」がどのように表象・視覚化されたかを検証し、江戸時代の「他者」の視覚的構築のメカニズム・カテゴリー化（構築・維持・変遷）についての考察を更に深めた。

研究成果の概要（英文）：This research uses image databases of *ukiyo-e* (Japanese woodblock prints) systematically as well as exhaustively. By doing so, it intends to explore how useful digital humanities could be for visual studies, i.e., the studies of social groups that produced and consumed the prints, and their culture. In this case study, this research focuses on *ukiyo-e* as visual culture shared by the townspeople in the early modern period. Examining how this specific media represented and visualized the Other, the research reveals categorization of the Other--its construction, maintenance, and transformation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	360,000	108,000	468,000
2010 年度	290,000	87,000	377,000
総計	650,000	195,000	845,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：芸術諸学、文化人類学、視覚文化、日本史、近世文化史、国際情報交換、イギリス

ス：アメリカ合衆国：カナダ、データベース

1. 研究開始当初の背景

(1) 欧米諸国では人文系研究にデジタル

技術を応用する「デジタル・ヒューマニティーズ」と呼ばれる学問分野が進行している。

(2) 立命館大学『ARC 浮世絵データベース構築システム』により、研究者限定ではあるが、世界有数の美術館所蔵の浮世絵およそ25万点の検索が可能となった。このデータベース化による情報の蓄積・共有化から、世界中に散逸した浮世絵の、複製芸術としての基礎情報の構築（例えば、同板・異版、続き物・組み物の補完）等に、目覚ましい成果があがってきた。

## 2. 研究の目的

(1) 前述のイメージ・データベースやデジタル・アーカイブの活用により可能となる膨大な情報の蓄積によって得られる知見は、視覚文化研究（ある視覚文化の総体を、それを創造・維持、また変容させる社会集団の特性と関連づけ考察し、特にそのイデオロギー的側面に興味を持つ）にこそ有効なものであると考えた。本研究は、デジタル・ヒューマニティーズ的アプローチにより、新たな視覚文化研究の方向性を探る試みである。

(2) 本研究は、近世日本社会で特定の社会集団に共有された視覚文化としての浮世絵から、「他者」がどのように表象・視覚化されたかを検証し、自者・他者のカテゴリー化の在り方（構築・維持・変遷）を論じることを目的とした。

## 3. 研究の方法

「他者」の視覚的な語彙の全体像を把握するため、膨大なデータを取り扱うことのできるイメージ・データベースを効率的な活用する。グローバル COE プログラム日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点の置かれている立命館大学アート・リサーチセンターが世界的にイニシアティブをとり推進してきた、

世界中の浮世絵のデータベース化により、国内外の有数な所蔵品がオンラインでかなり容易に閲覧・検索可能となってきた。このデータベースを通して得られる膨大な情報を整理・蓄積・研究していく。それと同時に、「他者」の視覚化・カテゴリー化の論理的モデルを深化させる。

具体的には、オンライン検索で、「他者」の代表例、数例について情報を整理・蓄積・研究していき、その際、前述のアート・リサーチセンターで開発されたデータベースの様々な機能（ユーザーメモ、付箋型機能、キーワード機能、ArtWiki）を試験的に利用し、二方向型インターフェイスについてフィードバックを行う。

その結果と、これまでの研究結果との比較により、視覚文化研究に対するデジタル・ヒューマニティーズ的アプローチの方法の有効性を検証していく。

## 4. 研究成果

(1) 江戸幕府の意図したものとは異なり、庶民が構築した世界観では、（中国と、できれば日本を含めた）華と、（その他の外国である）夷といった区分よりも、自者としての日本と、他者としての外国全てといった二項の対立が強調される場合が多々ある。換言すれば、（中国を含めた）様々な外国の特色・情報・表象の、その他者性が強調される反面、そういったものの外国間の識別・認識がマイチ曖昧・混乱していても、そのままにされる、またはそこまで識別する必要性が認識されない。または曖昧・混乱といった傾向が助長され、時に様々な外国の特徴・表象が積極的にクロスオーバーされる傾向が見られる。そういった混乱・クロスオーバーによって、ある種同質化された外国人全体が、「唐人」

といった総称・カテゴリーで括られている、認識されているものであったことが判明した。

(2) 2010年度は、「他者性」のシンボルとしての外国人の視覚的特徴に加えて、彼らにより輸入された物質文化の日本文化における流通・提示・表象の仕方について調査・研究した。それにより、様々な国からの輸入品が、長崎商人が独占する流通経路を経ることによりミックスされ、それによって物質的だけでなく視覚的な合成と錯覚が引き起こされることを証明した。言い換えれば、来日する中国人、オランダ人、その他の外国人の視覚的特徴がミックスされただけでなく、彼らの船・輸入品の特徴も合成・混合された。

このように日本で二次的に創出された「他者性」のシンボルは、浮世絵だけでなく当時の見世物にも確認でき、江戸時代後期を通じて町人文化のディスコースにおいて広く流通したことが判明した。結果として、江戸時代の「他者」の視覚的構築のメカニズム・カテゴリー化についての考察を更に深めることができた。

(3) 研究代表者（鈴木桂子）は、アート・リサーチセンター（ARC）ジョン・カーペンター研究室主宰の「近世視覚文化を読み解く」研究会に2009年度よりメンバーとして参加している。この研究会は、2008年12月より、ARC、ロンドン大学 SOAS、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学の研究者を中心メンバーとし、国際的なネットワーク型研究を実践し、多くの成果を生み出してきた。

2010年12月17・18日、この研究会の主催で、国際シンポジウム「Digital Iconography - イメージデータベースと図像研究 - 」を立命館大学で開催した。このシ

ンポジウムは、イメージ・データベースに基づく文化資源の共有化によって、視覚文化研究がどのように深化し、新知見を生み出すのかを論議することを主旨とした。国内外の研究者を招へいし、文学、演劇学、中国文化、文化人類学などの専門的分野からの事例研究発表と、視覚文化研究の現状と題したパネルディスカッションを行い、新しい研究方法として「Digital Iconography」を提唱する結果となった。研究代表者は、文化人類学者の立場から発表を行った。

(4) 前述のシンポジウムの成果として注目できるのは、各発表者の題材は、文学、絵画、演劇、文化人類学、中国絵画など全く異なるものであるが、近世視覚文化という枠組みにおける有機的な関係を示すことに成功し、全体として、まとまりのある内容を近世視覚文化として提示できたことにある。一方で、デジタル・イコノグラフィーというタイトルが示すように、本シンポジウムはデジタル・アーカイブ活動と連動させた図像研究というところに着眼点をおいたものであるが、人文科学分野にデジタル・ヒューマニティーズを導入することの具体的な成果を明確に打ち出すという意味ではまだまだ課題があることも判明した。

換言すれば、データベースを使って資料の閲覧検索がしやすくなる等、デジタル技術の便宜性についてはすでに確認されている。がしかし、デジタル技術をあてはめることによって研究者側の対象に対する意識の変化を生み出すといったところまで、即ち、人文科学領域におけるデジタル技術の評価を完全に読み換えるまでには、デジタル・ヒューマニティーズはいまだ至っていない。この点に関しては、今後の更なる研究・研究交流が必要である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

Mitsuyuki Inaba, Keiji Yano, Ryo Akama, Kozaburo Hachimura, and Keiko Suzuki, "Constructing a Global Hub for the Study of Japanese Arts and Cultures through Digital Humanities" *2nd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities Symposium 2010*, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), pp. 89-92, 2010年, 査読有

Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Ryo Akama, Mitsuyuki Inaba and Keiko Suzuki, "Digital Humanities Center for Japanese Arts and Cultures," *International Conference of Digital Archives and Digital Humanities*, pp.1-25 to 1-42, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 2009, 査読有

[学会発表](計10件)

Keiko Suzuki, "Foreign Ships and Travellers from Afar: Visual Conflation and Confusion in Edo Art," 立命館創始140年・学園創立110周年・APU開学10周年記念国際シンポジウム「デジタル・イコノグラフィー イメージデータベースと江戸出版文化研究」立命館大学アート・リサーチセンター(京都市) 2010年12月18日

Mitsuyuki Inaba, Keiji Yano, Ryo Akama, Kozaburo Hachimura, and Keiko Suzuki, "Constructing a Global Hub for the

Study of Japanese Arts and Cultures through Digital Humanities," *2nd International Conference of Digital Archives and Digital Humanities Symposium 2010*, International Convention Center, National Taiwan University (Taipei, Taiwan), 2010年11月30日 invited lecture.

Keiko Suzuki, "When Westerners were Chinese: Visual Representations of Foreigners in the Japanese Popular Art of Ukiyo-e," *Orientalism/Occidentalism: Languages of Culture vs. Languages of Description*, Russian Academy of State Service under the President of the Russian Federation (Moscow, Russia), 2010年9月24日 査読有

Keiko Suzuki, "Visual Seajack: How did Ukiyo-e Depict Foreign Vessels and their Passengers?," *International Exchange: Trading Material Culture, Receiving and Transforming Images*, Brunei Gallery B104, School of Oriental and African Studies, University of London (London, UK), 2010年9月18日

鈴木桂子 「明治浮世絵は海外出兵をどう描いたか ジェンダーとエスニシティーの視点から考える」イメージ&ジェンダー研究会第111回例会、港区男女平等参画センター・リーブラ(東京都) 2010年8月7日

Keiko Suzuki, "Blurred Definitions of "T jin" and "T butsu": Downplaying the Cultural Authority of "Chinese People" and "Chinese Goods" in Late Edo Japan," *The*

*Association for Asian Studies Annual Meeting 2010* (Philadelphia, PA, USA),  
March 26, 2010 査読有  
Ryo Akama, and Keiko Suzuki,  
"Development of the ARC's Image  
Database for Japanese Prints and  
Illustrated Books," *The NCC's Third  
Decade (3-D) Conference*, North  
American Coordinating Council on  
Japanese Library Resources,  
Philadelphia, PA, USA, 2010年3月22  
日, invited lecture.

鈴木桂子「歌舞伎衣装に見える外国性  
カテゴリーから考える」「近世視覚文化  
を読む」研究会(東京)、2010年1月9  
日

Keiji Yano, Kozaburo Hachimura, Ryo  
Akama, Mitsuyuki Inaba and Keiko  
Suzuki, "Digital Humanities Center  
for Japanese Arts and Cultures,"  
*International Conference of Digital  
Archives and Digital Humanities*,  
National Taiwan University (Taipei,  
Taiwan), December 2, 2009

鈴木桂子「浮世絵にみる他者の構築  
『唐人』という視点から考える」風俗絵  
画研究会、立命館大学(京都市)、2009  
年8月16日

[その他]

ホームページ等

[http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/  
info/DI/index.html](http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/info/DI/index.html)

[http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/  
JCSG/john\\_carpenter/](http://www.arc.ritsumei.ac.jp/lib/GCOE/JCSG/john_carpenter/)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

鈴木 桂子 (SUZUKI KEIKO)

立命館大学・衣笠総合研究機構・准教授

研究者番号：10551137